



## 海峡両岸からの賓客

2008年12月と本年4月、台湾、大陸から要人をお迎えした。分刻みの超過密スケジュールの中、青空の下、淡路島、明石海峡そして大橋をバックにした移情閣と孫文の展示とをあわせ参観し、交流を深められた。

### 世界の孫中山先生 吳伯雄中国国民党主席来館



移情閣を背景に

吳伯雄氏ご夫妻（中央、右端）と  
貝原俊民理事長、林同春副理事長  
界の華僑華人の尊敬を集めている偉大な人物であり、党史  
館との資料の交換など交流を進めていきたい、とお礼の言  
葉を述べられた。短時間だったが、和やかな雰囲気の中、  
話が弾んだ。吳主席は流暢な日本語で質問を挟みながら、  
熱心に展示をご覧になられた。

2008年12月12日、吳伯  
雄中国国民党主席が来館  
された。貝原俊民理事長、  
林同春副理事長、安井三  
吉館長、石嘉成常務理事、  
片山啓常務理事が出迎えた。  
冬とはいえ、風もなく、暖かな朝だった。記  
念撮影の後、貝原理事長が「この孫文記念館は日本で唯一であり、孫文先生と神戸とは深いつながりがあり、孫文先生と縁の深い華僑と日本人が多い。今後、神戸と台湾との交流が進むことを期待する」と歓迎の挨拶を述べ、吳主席は、孫中山先生は台湾、大陸そして世

### 孫中山先生の遺志を継承 李長春中国共産党中央政治局常務委員来館

2009年4月3日朝、  
李長春中国共産党中央  
政治局常務委員と  
党・政府の要人一行  
が来館された。貝原俊民  
理事長、林同春副理事長、  
安井三吉館長、石嘉成常務  
理事、片山啓常務理事、  
陳來幸常務理事が  
出迎えた。貝原理事長は、「移情閣が



移情閣東門前にて

記念館参観後の李長春氏（右）と談笑する  
貝原俊民理事長と林同春副理事長  
年、兵庫県と広東省友好提携樹立を記念して神戸華僑から  
県に寄贈され、それを県が修復して1984年、孫中山記念館  
としてオープンした」と当時の経過を説明した。これに対して、李常務委員は本館の役割にふれつつ、さらに、孫中山先生は辛亥革命を指導するなど毛沢東や鄧小平とともに20世紀中国を率いてきた人物であり、今日、中国は中華民族の復興を実現しつつあるが、それは孫中山先生の遺志の継承でもある、と話された。引き続き館長の案内で展示を参観され、この館は、規模は大きくないが内容には意義深いものがある、との感想をもらされた。暖かさが戻り、穏やかな朝だった。

（館長：安井三吉）

### 目 次

海峡両岸からの賓客	.....(1)
賛助会創立1周年	.....(2)
賛助会通信	.....(2)
財孫中山記念会理事会・評議員会報告	.....(2)
事務局長交代	.....(3)
記念館ニュース	.....(3)
世界の孫文記念館（サンフランシスコ）	.....(4)
辛亥革命と日本（梅屋庄吉）	.....(4)

北京便り	.....(5)
錦堂学校創立百周年	.....(5)
資料室便りNo.3	.....(5)
移情閣友の会通信	.....(6)
孫文研究会通信	.....(6)
行事予告	.....(6)
編集後記	.....(6)

財孫中山記念会 賛助会創立1周年記念  
～福田康夫前総理をお迎えして～

孫文を支えた日本人—孫文記念館来館



館長の案内で孫文記念館を見学される福田氏

(左：五百旗頭防衛大学校長、右：田崎賛助会会長)

について説明された。館長が案内に当ったが、宮崎滔天、梅屋庄吉、頭山満、犬養毅などの写真を通じて孫文を支援した日本人には実にさまざまな人々がいたこと、天安門前広場の孫文像、辛亥革命のときの神戸の華僑や市民の反応などに関心を示された。わずか25分という駆け足の参観だったが本館の特徴を理解していただけたのではと思う。

数日間雨が続き、翌日も雨だっただけに、この日は陽が出て、暖かく、春まぢかしの感がする好天の一日だった。

(館長：安井三吉)

### アジア太平洋の時代に向けて—懇談会での講話

同日午後、賛助会設立一周年を記念して、兵庫県公館に未来志向の日中関係を重視する福田康夫前総理をお招きし、「今後の日中関係」というテーマで靖国問題からアジア太平洋時代の課題などにわたって次のような含蓄あるお話を頂いた。

「小泉元総理の時期に悪化した日中関係は、安倍元総理の「氷を碎く」旅まで首脳外交を再開できなかった。首相就任後の2007年12月の訪中では、北京大学での講演「共に未来を創ろう」を通じて中国国民に直接語りかけるなどして国民感情の改善に努めた。胡主席とは毎年5千人の青少年交流に合意した。餃子問題で日本人の対中感情が悪化したが、隣国の発展を脅威とするのではなく、共に喜びとし、お互い相手の敏感な問題には誠意ある思いやりが大切だ。経済や宇宙技術の発展に伴い、伸び盛りの中国とわが国がどうつきあっていくか、今こそ将来のあらゆる事態を見越した真剣な取り組みが肝要ではないかと思う。

世界経済の4割を占める日中米三国の三角形を安定させる必要がある。底辺の日米関係は安全保障があり太線だが、日中間は『論語』などに代表される「文化力」という新線を引くことも可能である。日中米三国は経済的相互依存を強め、世界経済の成長点であるアジアの発展に貢献する使命がある。その成否は安定した血の通った国民感情が左右



講話中の福田氏

する。

今回、孫文記念館で日中間の架け橋であった孫文とそれを支えた日本人に関する展示を見学して、両国の負の過去を乗り越え相互の和解に貢献しようという活動に感銘を受けた。」

最後に五百旗頭先生が「福田政権は日米関係を基軸にアジアで仕事する方針を貫き、日中関係では、独仏両国和解の象徴であるエリゼ条約



懇談会会場風景

に倣って東シナ海を平和の海にするために尽くされた。現代はアジア太平洋時代だが、米中両大国を擁するこの地域での日本ブランドの役割が鍵になる。」とまとめられた。

(孫中山記念会常務理事：片山啓)

### 賛助会通信

6月22日、中華会館東亞ホールにて下記の講演会を開催いたしました。講演の詳細は次号に掲載いたします。

#### 「中国経済の現状と課題

——4兆元の経済対策は8%成長を実現できるか？

講師 田中 修 氏

(日中産学官交流機構特別研究員、東京大学客員教授)

### 孫中山記念会 理事会・評議員会報告

- 平成20年度・第2回（3月25日：中華会館東亞ホール）
  - 平成21年度事業計画・予算案が承認されました。
- 平成21年度・第1回（5月28日：中華会館東亞ホール）
  - 平成20年度事業報告・決算報告が承認されました。
  - 理事および常務理事の定数について各1名の増員が承認されました。
  - 現任役員の任期満了にともない、役員が新たに選任されました。(敬称略)

【理事長】貝原俊民

(財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長)

【副理事長】南部 稔（兵庫県立大学名誉教授）

安井三吉（神戸大学名誉教授・孫文記念館館長）

黄耀庭

(神戸華僑総会顧問・大信実業株式会社相談役)

理事（26名）・常務理事（7名）・監事（2名）の一覧は、ホームページで公開しております。

・林同春氏（神戸華僑総会名誉会長）に、本会顧問を委嘱しました。

\*本報告の詳細は、孫文記念館ホームページをご参照ください。

(孫中山記念会事務局長：松原要)

## 財孫中山記念会 事務局長交代

2年半にわたって当会事務局長を務められた杉森一興氏のご退職にともない、4月1日付で松原要新事務局長が着任いたしました。新旧の事務局長より『孫文』読者の皆様へのご挨拶です。

## 日中友誼 万世相傳

前事務局長 杉森 一興

移情閣で中国語講座が開講されるとの新聞記事が受講のきっかけとなった。25年前のことである。最初の先生は神戸大学留学生の藤軍さんとご主人の徐一平さんであった。当時は夜6時から8時までの夜間講座で、中級から上級に進むと、2~3年後にはその受け皿として師範講座ができた。その頃、おふたりの間に男子が誕生した。母親の藤軍さんは故郷の両親に子供を預けて勉学を続けた。思い起こせば、その頃天安門事件が発生し、留学生の多くは葛藤の中にあった。両先生も苦しんだに違いない。徐一平さんは博士号を授与されて帰国し、藤軍さんはその後も日本にとどまり、京都で茶道研究と博士論文執筆とを見事に成就して帰国された。

それから20年経った。徐一平さんは北京外国语大学教授日本学研究センター主任となり、藤軍さんは北京大学外国语系教授となった。ご子息の徐博晨さんは北京大学に入学した。2月3日、ご一家揃って復原後の移情閣を初めて訪れ、博晨さんは高校時代に書いた日本の「将棋」の本を、藤軍さんは著書『日本茶道文化概要』、『茶から茶道へ』等を孫文記念館に寄贈された。日中文化交流大使2世の誕生はうれしい。下記に徐博晨さんの即興詩を記す。

日暮三山後 中山旧館前 友人得再聚 誼份暖心間  
万里隔碧海 世事亦変遷 相逢一壺酒 傳杯言笑歡  
己丑春舞子 徐博晨

“大和三山を見て日暮時、孫文記念館を訪れ、友人と再会することができ、深い友情に心温まる。碧海は万里を隔て、世事変遷とともに、思いがけない一壺の酒、談笑して杯を重ねる。”

彼の五言律詩に粹な思考が光る。各句の頭文字の8字を本文題名とした。

私は孫文記念館の友の会活動や孫中山記念会で、貴

重な体験をさせて頂いた。ありがとうございました。日中交流の象徴である孫文記念館の、今後ますますの発展を祈念します。



2009年2月3日 河合純子様宅にて  
(中央:徐一平、右:藤軍、  
右上:徐博晨、左:杉森)

## 「孫文記念館」とともに

事務局長 松原 要

はじめまして。4月1日から、ご縁をいただき「孫文記念館」にお世話になっております事務局長の松原要です。どうぞよろしくお願ひします。

私は幼い頃から舞子に住んでいて、「移情閣」のことを「六角堂」と呼んで親しんでおりました。また、長年にわたり県職員として、しばしば、明石海峡大橋の建設促進の仕事にかかわってきました。その大橋のもとにあって、その美しい姿を見せて貰む「移情閣」にかかりを持たせて頂きました奇しきご縁を大変うれしく思っております。

私は地元舞子に住みながら、移情閣を外から眺めその美しさに惹かれてはいても、中にはどのようなものがあり、どのような活動をしているのかもよく知りませんでした。しかしこれを機に、「孫文」という人の存在とその思想を学び、新たな出会いとして、中国と関わり、中国をより深く知る機会を与えられましたことに、心が弾み、夢ふくらむ思いを抱いています。

この孫文記念館には、

3つの面で重要な意味があると受け止めています。まず第1には、八角構造の優れた建築物として国の重要文化財の指定を受けていること。第2は日本で唯一の「孫文記念館」であり、「孫文」を縛として日中友好の拠点であること。第3は華僑、行政、経済界、学術界、市民と多くの関係者の協働によって支えられていることがあります。



孫文記念碑「天下為公」前にて

こうした孫文記念館が、①地元神戸の多くの人々に親しまれ、②孫文の活動と思想をより多くの人々に伝え、③日中友好交流の拠点として、アジアから世界に向けて友好交流・共生平和の発展に寄与することを願っております。

このように大きな役割を担う「孫文記念館」の事務局を預かる者として、微力ではありますが、皆様のご指導ご支援を頂いてその務めを果たして参りたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 記念館ニュース <2009年1~6月>

### \* ホームページ英語版開設（3月）

日・中・英の三ヶ国語が揃った孫文記念館ホームページ。皆様からのアクセスをお待ちしています。

### \* ホームページ蔵書検索データ更新（4月）

ホームページ「資料室・孫文記念館所蔵文献検索システム」のデータが一部更新されました。今後も引き続き文献データを追加、更新してまいります。

### \* 研究員交代（4月）

3月末付で高瑩瑩研究員が退職、4月1日付で徐小潔研究員が着任いたしました。

### 世界の孫文記念館（その3：アメリカ・サンフランシスコ） ～金山国父紀念館 Dr. SUN YAT-SEN MEMORIAL HALL OF SAN FRANCISCO～

サンフランシスコは1848年のゴールドラッシュでわいた西海岸の中心地で、3年後に金鉱が発見されたメルボルンが「新金山」、ここが「旧金山」と呼ばれるようになったことはよく知られている。広東省からは多くの清国人移民がこの町に集まり、北米最初のチャイナタウンが形成された。チャイナタウンの目抜き通り、ストックトン通り836に金山国父紀念館は位置する。孫文のサンフランシスコ来訪は合計4回を数える。1896年6月、1904年3月につづき3度目の来訪となった1910年2月、現地華僑を糾合するため、ここに同盟会を組織した。やがて全米の中心として「美洲同盟会」へと改組され、同年8月には機關紙『少年中国晨報』が発行された。『少年中国晨報』は1991年4月にやむなく停刊するが、その発祥の地に国父紀念館が建てられ、講堂には当時孫文が執務した机と椅子のレプリカが置かれている（実物は台北の国父紀念館に寄贈）。現在、中国国民党駐米国総支部が管理している同館を訪問する機会を得て、陳伯豪副董事長からお言葉を頂戴することができたのでここに紹介したい。

金山国父紀念館は1994年7月7日に開館し、今年で創立15周年を迎えます。孫文の思想を広く知らしめ、革命の事績を展示することを趣旨とし、これまで「中山先生思想論壇」、「三民主義精義研究」、「國父思想の時代意義について」などの学術シンポジウムを行い、台北の国父紀念館とともに「國父史跡大展」を共催するなどの活動を行ってきました。また、英語と中国語版の三民主義冊子を一万部作成し、アメリカの各大学図書館や教育機関、華文学校、華僑団体、華裔学生などに贈呈しています。多くの文化団体との交流も盛んで、書画展や切手展、書籍展など各種芸術文化活動や健康教育活動を推進し、講堂と展示室を一般に無料開放しています。運営はすべてボランティアにより、維持経費は基金からの利息と建物の賃貸収入、熱心な人々からの寄



金山国父紀念館エントランス

付でまかなわれ、サンフランシスコチャイナタウンの重要な文化活動拠点の一つとなっています。私たちは日本の孫文記念館関係者のご来訪と今後の交流促進を心から歓迎します。  
(副館長：陳來幸)

### 辛亥革命と日本～辛亥革命100周年へ向けて～その1

1911年10月10日、武昌蜂起に端を発した清朝打倒の波は、瞬く間に中国各地に波及した。辛亥革命である。翌年1月にはアジア初の共和国となる中華民国の建国が宣言され、孫文が初代臨時大総統に就任する。多くの日本人がこの革命を支援し、自らの命を賭けたものもいた。

2011年に辛亥革命百周年を迎えるにあたり、世界の各地

でさまざまな記念行事が挙行されるものと思われる。『孫文』では、今号から5回連載で辛亥革命を支えた日本人と在日華僑たちに光をあててゆきたい。

### 梅屋庄吉（1868-1934）

梅屋庄吉と孫文は1895（明治28）年、香港で出会った。長崎生まれで少年のころから海外雄飛の夢を抱いていた梅屋が、同地での写真館経営に着手したことである。ふたりは一日語り合い、「肝胆相照らし」たという。その後、梅屋はトク夫人とともに、物心両面にわたって孫文を支え、中国の革命を支援し続けた。

今に残る辛亥革命の記録映像と写真は、梅屋が中国に派遣した技師によって撮影されたものである。革命勃発当時、孫文は資金調達のためにアメリカのメンバーに滞在中で、ヨーロッパ各国を経由して帰国したのは1911年の暮れだった。梅屋はのちにこの記録フィルムを孫文に贈ったという。日本における記録映画の先駆者・梅屋は、辛亥革命に彼らではの貢献をするとともに、革命の戦場に立つことができなかつた孫文に何よりの友情の証を示したのである。

孫文の逝去後、梅屋は孫文の偉業を後世に遺そうと、私財を投じて銅像4基を制作し、孫文ゆかりの地に贈呈した。これらの像は、南京孫中山紀念館、黄埔軍官学校跡地（広州）、中山大学（広州）、マカオ国父紀念館に現存しているほか、銅像に先立って制作された100個の小型胸像のうちの一つは、当館に展示中である（川田泰代氏寄贈）。

ただし梅屋のまなざしは、孫文と中国のみに注がれていたわけではない。新宿中村屋の娘と結婚し「中村屋のボース」として知られるラス・ビハリ・ボースをはじめとするインド人革命家や、フィリピン独立を目指したマリアノ・ポンセラを支援し、彼らを孫文と結びつけたのは梅屋である。孫文の理想に共鳴し、それを継承する梅屋の姿をここに見出せる。1934年秋、日中関係改善を期した梅屋は、広田弘毅外相の招きに応じて上京する途上で倒れ、11月23日に不帰の人となった。

梅屋庄吉関係の資料は、彼の子孫である小坂家の方々によって大切に保管されてきた。現在の日比谷松本樓常務取締役小坂文乃氏は、梅屋庄吉の曾孫にあたる。

梅屋庄吉と孫文銅像  
(小坂文乃氏所蔵)  
銅像は1928年4月に第1基が完成した辛亥革命の写真（小坂文乃氏所蔵）  
「漢口支那市街招商局火災17日午前10時午後全焼」の説明書きがある

（研究員：武上真理子）

## 北京便り ロバと自動車——宴の後の北京

財孫中山記念会参与・在北京  
山田 敬三

昨年の前半、中国では物価が月ごとの統計で前年比8%前後という異常な上昇が続きました。その中身の大部分が食糧でしたから、それはもろに低所得者層を直撃していたといえるでしょう。日本の国会にあたる全国人民代表大会でも物価対策が最大課題となつたようです。

しかし、8月8日午後8時に開幕した北京オリンピックが終わり、記録的な金融危機のおとずれた秋口には、この猛烈なインフレの兆候が嘘のようにおさまり、天文學的な数字にまでなつて不動産価格にも下落のきざしが見えてきました。この数年来、毎年10%を超えて成長してきたGDPが、ここにきて6%代にまで落ち込んでいます。

大学でも卒業生の就職に影響が出てきました。政府はその対策の一環として大学院生の合格者を定員の5%増しにするよう指導しているようですが、これは教室の確保や教員の配置、宿舎の整備などといった教育・研究条件につながる問題へ影響するだけに、大学側にとっては頭の痛い問題となっているようです。

その一方、所得格差がますますはっきりしてきました。北京市統計局が3月末に発表した数字では、北京の企業で働いている人たちの年収は、昨年の平均で44,715元（1元15円とすれば約67万円）ですが、そのうち証券業を初めとする金融関係者の所得は100万元超（1,500万円以上）、織維関係の製造業では2万元というように、その開きが年間で100万元を越えるまでに大きくなりました。これには零細企業や地方出身の農民工の極端に低い収入額は含まれていません。



写真は北京の大通りにつながる横町の風景です。高級車がバンバン走っている反面、近郊の農村からロバの引く荷車や自転車で露店を出す人の姿も見えます。これがまさに急速に発展しつつある中国の現実、和諧社会の叫ばれる所以だと思います。

### 「錦堂学校建校百年紀念大会」に参加して

財三江会館  
理事長 姜 成生

吳錦堂先生が1909年に浙江省慈溪県（現慈溪市）東山頭で錦堂学校を創建以来、今年で百年を迎えました。5月26日に慈溪で盛大な百周年記念式典が開催され、約800名の卒業生と旧教職員が集まりましたが、最高齢は81歳の老学友で、家族を同伴して上海から参加されました。吳錦堂先生の外孫娘である曹愛徳女史もご家族と共に慈溪に来られましたが、周乃復先生のお話では、曹女史の式典参加は初

めてのことだということでした。

26日午前9時、吳錦堂先生の銅像除幕式が行われました。その後、体育館で式典が行われましたが、学生たちの優美な旋律



「錦堂学校建校百年紀念大会」会場風景  
に乗って踊りは舞台いっぱいに広がり、楽しい文芸会を見せていただきました。

錦堂学校は百年の歳月中、幾たびかの校名の変遷を経つつ、それぞれ時代の流れと共に生きてまいりました。ただ吳錦堂先生の創校精神“以服務為宗旨、以就業為導向、以技能為本位”という理念は一貫しております。1992年、錦堂師範学校を滸山に移し、元の校舎は慈溪市錦堂高級職業中学として新たに開校されました。

### 資料室便り 記念館の所蔵資料探訪③ ～記念館所蔵文献目録について～

孫文記念館は1984年の開館以来、山口一郎先生をはじめとする諸先生のご支援により孫文関係の書籍などの収集に努め、その一覧は、2004年本館が編集発行した『孫中山記念館所蔵文献・展示資料目録』としてまとめられた。そのなかには『孫文先生東游紀念写真帖』や『續刻杜白兩湖全書』という貴重なものも含まれている。

『孫文先生東游紀念写真帖』は、1913年2月から3月の間に孫文が日本を公式訪問したときの様子を詳細に紹介したもので、中華民国初代臨時大総統だった孫文を熱烈に歓迎した日本人や華僑の姿を写した貴重な写真をたくさん収録している。『續刻杜白兩湖全書』は、奈良大学の森田憲司教授から寄贈していただいたもので、移情閣の主人であり、明治・大正期の神戸で活躍した吳錦堂が中国で行った水利事業を記録し、称えた一冊である。

文献の収集活動は2004年以降も続き、孫文のみならず吳錦堂や移情閣、在日華僑、日中関係などを中心に、当館が所蔵する文献は、その質・量ともに充実しつつある。さらに近年、神戸華僑歴史博物館、中村哲夫先生などから様々な書籍を寄贈していただいた。現在資料室では『所蔵文献目録』の増訂に取組み、その成果をホームページにも反映させる計画を進めている。

私は研究員を退職するにあたり、この4年間で『所蔵文献目録』の増訂を十分に果たせなかつたことが悔やまれるが、新研究員徐小潔氏の今後の活躍に期待するものである。

（前研究員：高瑩瑩）



『續刻杜白兩湖全書』口絵  
1909（明治42）年6月、  
杜湖東水門傍でダム建設を  
監督する吳錦堂

## 移情閣友の会通信

### 1. 2009新春のつどい開催：1月25日(日) 舞子ビラ藤の間

林同春会長、山田敬三副会長、中国語講座講師をはじめ35名が参加され、和やかな空気の中で川村旭芳先生の筑前琵琶の演奏に聴き入るうちに、物語の世界に飛んでいるような心地よさを感じました。

舞子ビラ特製米粉料理の食事は、盛り付け、味ともに逸品でした。



川村旭芳先生の筑前琵琶の演奏（新春のつどい）

### 2. 2009年度総会開催：4月26日(日) 移情閣

本年度議案のすべてが出席者全員の同意を得て承認されました。25周年記念行事の一環として行われた特別講演では、孫文記念館と移情閣友の会の両方に



深く関わってこられた貝原俊民孫中山記念会理事長が「移情閣と私」というテーマで、「過去～現在の世界情勢の変化を踏まえれば、今後の国際関係では日中関係が重要性を増す。この中で孫文の存在は非常に大きく、日本における孫文記念館の役割が増大する。孫文記念館は市民である友の会が支えているので、ともに力を合わせて文化交流を進めることができること」を講演されました。

### 3. 2009年度行事

- ・公開講座（5月17日・6月21日の連続講座  
講師：中村哲夫文学博士）
- ・移情閣まつり：8月8日(土)
- ・移情閣月見の会：10月4日(日)
- ・25周年記念行事：11月14日(土)

（移情閣友の会企画運営委員長：佐瀬祥一）

## 孫文研究会通信

### \*2009年度（1～6月）活動報告

- ・孫文研究会総会、研究例会：1月12日(月・祝) 中華会館  
研究報告「1930年代内モンゴルにおけるモンゴル民族運動と『孫文的なるもの』」（田中剛：神戸大学学術研究員）
- ・『孫文研究』45号発行（3月）…「孫文2008」特集
- ・夏季例会：6月27日(土) 中華会館

## 編集後記

「日本で唯一の孫文記念館」——私たちはしばしばこの言葉を用います。神戸に生きる人々が、日本と孫文を結ぶ糸を大切に継承してきたことを何よりも誇りに感じているからです。誌面でもご報告したとおり、ここ数ヶ月は内外から多くの大切なお客様をお迎えし、さらにこの思いを強くしました。

11月12日、孫文記念館は開館25周年を迎えます。「孫文2009」では、ここ舞子の地に育まれてきた「孫文をめぐる物語」を振り返り、神戸の暮らしに息づく日中友好の歴史をたどるほか、移情閣友の会25周年記念との合同行事も予定されています。どうぞご期待ください。各行事の詳細は、

### 研究報告「蒋介石日記と民国史研究」

(汪朝光：中国社会科学院近代史研究所研究員)

### \*2009年度（7～12月）活動予定

- ・「移情閣で『大アジア主義講演』を読む」の後援（7月）
- ・『孫文研究』46号発行（9月）
- ・「孫文2009」：特別展の共催、秋季例会の開催（11月）  
(孫文研究会代表理事：緒形康)

## 行事予告

### \*シンポジウム「中華人民共和国の60年 中国はなにを成し遂げ、どこに向かっているか」

日本現代中国学会・孫中山記念会の主催で、国際シンポジウムを開催いたします。

日 時 10月17日(土) 13:00～17:30

場 所 神戸大学百年記念館（神大会館）

### 概要

- ①基調講演…講演者：長井暁（ジャーナリスト）、秦暉（清華大学）、季衛東（上海交通大学）
- ②パネルディスカッション…座長：国分良成（慶應義塾大学）、パネラー：秦暉、季衛東、村田雄二郎（東京大学）、唐亮（早稲田大学）、陳來幸（兵庫県立大学、孫文記念館）

### \*「孫文2009」

「孫文月間」特別行事の第2回となる「孫文2009」。本年度も多数のご来場、ご参加をお待ちしております。

- (1) 特別展示「移情閣から孫文記念館へ」

会 場 孫文記念館 2階

期 間 11月1日(日)～11月29日(日)

- (2) 音楽・講演の会

11月14日(土) 舞子ビラ・アジサイホール

\*移情閣友の会25周年記念行事と合同で、コーラス・胡弓同好会による音楽、『お家さん』『天涯の船』などの著作で知られる作家・玉岡かおる氏による講演等を企画中です。

- (3) 学術セミナー

11月21日(土) 14:00～17:00

KCCビル（元町）10階会議室

講 師 園田節子氏（神戸女子大学文学部）

\*孫文研究会秋季研究例会を公開学術セミナーとして開催いたします。

ホームページやチラシで随時ご案内いたします。（M.T）

### 孫文記念館館報『孫文』

第3号（2009年6月25日発行）

発行者 財団法人 孫中山記念会

〒655-0047 兵庫県神戸市垂水区東舞子町2051

Tel : 078-783-7172 Fax : 078-785-3440

e-mail : sunwen20@aioros.ocn.ne.jp

URL : <http://www.sonbun.or.jp>

（題字は孫文記念館所蔵の孫文自筆の書より。ただしオリジナルは縦書き）